

『基本大全』チェックリストの効果的な使い方

数学の学力向上に欠かせないのが「反復復習」です。応用問題に対して「気付く」や「ひらめく」といった発想は、すべて基本事項がもとになっているからこそできることです。簡単に言えば、**基本事項を「覚えている」**からこそできたといえます。受験学年になるまでに、Basic 編に書いてあることがすべて覚えられくらいの勢いで復習することが大切です。そのためにも繰り返すことが欠かせません。

まず、リスト内のチェックの項目に以下のマークを付与して問題を分類しています。

- ・数学が苦手な生徒向け→まず一周するためにここだけ解けばよいという問題に「📖」
 - ・受験生で既習済み→振り返る際にここは押さえておきたい最短ルート問題に「🔥」
- ただし、分野や問題によって復習の回数は少なくてもいい場合もあれば、何回も繰り返してやっと身につくものもあるでしょう。

そこで、「学習日と理解度」の欄に○（完璧）△（分かっていたけど答えが間違う）×（理解不十分）といった印をつけて、○がつけば復習はひとまず完了にしましょう。

1回目で○の分野もあれば、3回目で○の分野も出てくると思います。また、間違えた場合は付箋を用いて間違えた理由を記入して基本大全に貼りつけましょう。あとで振り返るときに記号だけではどうして間違えたのかがわからないからです。さらに、演習問題であれば動画を見ると、動画の最後にその問題のまとめが出ますので、それを付箋に写して基本大全に貼りつけるのも効果的です。

「基本大全にあなたの学習の記録が残っている」ということが大切です。基本大全を見ればあなたの頑張りが見える、そんな風に使い倒してほしいです。

『トレーニングノートα』（受験研究者/TN-α）の利用方法について

基本大全を用いて学習する際に、演習問題が不足している、または定期テストなど試験が近いときに基本大全に収録している問題以外で演習をこなしたいと考える場面が出てくる場合があります。そういった、演習量をカバーする教材として同じ受験研究社から発売されている『トレーニングノートα』を問題集として推奨しています。

『トレーニングノートα』では、紙面に解答スペースがあるので、冊子のみでコンパクトに学習ができます。

『トレーニングノートα』と基本大全シリーズは完全に準拠しているものではありませんので、学習日と理解度チェック欄の横に対応している問題の番号をまとめておきました（対応しない問題もあります。ご了承ください）。必要に応じて該当する問題を解き、理解が浅い部分に関しては基本大全の動画解説を見て補完していただけたいと思います。

逆に、『トレーニングノートα』を予め持っている場合、不明点をリストから逆に調べることで該当する基本大全の動画講義を確認することが可能です。

また、塾の先生方が『トレーニングノートα』を持っている場合は、生徒さんに基本大全の学習範囲を予め指示し、学習の理解度チェックとして『トレーニングノートα』をテストとして用いる方法も効果的です。

『フォーカスゴールドスマート』（啓林館/FGS）の利用方法について

学校の傍用参考書として利用している可能性があり、『基本大全』を持っていなくても代用できるように対応表を追記しています。

『トレーニングノートα』同様、対応していない問題もありますが、『フォーカスゴールドスマート』の不明点もリストから逆引きして該当する基本大全の動画講義を確認することが可能です。